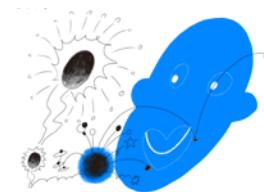
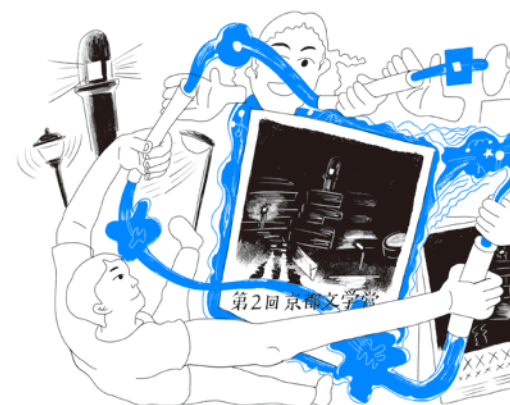


# HAPS

Annual Report 2020

HAPS事業報告書 2020年度



# HAPS

## Annual Report 2020

HAPS事業報告書 2020年度

2020年度はいうまでもなく COVID-19 によるパンデミックという世界的な災厄の影響を受けた一年でした。HAPS のこれまでの仕事の中に「対面でしかできないこと」が、どの程度の頻度と強度で存在しているのかを正確に知ることのできた一年だったと言えます。また、芸術家や文化活動従事者への支援のあり方を反省する一年でもありました。緊急支援はもちろん重要ですが、それとともに恒常的な本来の支援のあり方を再考する必要があるのではないか。このような状況だからこそ未来を見据え、京都だからこそできることを力強く打ち出していくべきではないでしょうか。その際、HAPS の「柔軟性」は大きな役割を果たしうるはずです。苦しい時だからこそ初心を忘れず、理想も捨てず、より大きなことへ挑戦していきたいと思っています。来年度も、さらにその先もぜひ期待を持って HAPS を見守っていただければ幸いです。

遠藤水城 (HAPS実行委員長)



左から櫻岡聡、堀美智子、岡永遠、藏原藍子、沢田朔、石井絢子



左から奥山理子、小泉朝未

2020年度文化庁 文化芸術創造拠点形成事業  
京都市「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり事業」

### HAPS 事業報告書 2020年度

発行日 2021年3月31日

発行元 一般社団法人HAPS  
企画・編集 一般社団法人HAPS事務局  
編集 松永大地  
デザイン 吉田健人 (bank to LLC.)  
イラストレーション 安藤隆一郎  
撮影 大西正一、表恒匡、片山達貴、富永亜紀子、中谷利明、堀井ヒロツグ、前谷開、麥生田兵吾  
印刷 有限会社修美社  
協力 川田知志、小松千倫、谷本研、佃七緒、中村裕太、服部しほり、服部浩之、山田創平、Homesick Studio(敬称略)

一般社団法人HAPS  
〒605-0841 京都市東山区大和太路通五条上る山崎町339  
339 Yamazaki-cho, Higashiyama-ku, Kyoto 605-0841, JAPAN  
E-MAIL info@haps-kyoto.com  
TEL 075 525 7525 FAX 075 525 7522  
http://haps-kyoto.com





# HAPS TOPICS 2020

## Topics

2020年度、HAPSではCOVID-19拡大の影響で活動の機会が失われた芸術家向けの支援として、関わり方も様々に、複数の事業に取り組みました。

### 01 奨励金募集の相談窓口として、 また広報物などを制作。

2020年5月

#### 京都市文化芸術活動緊急奨励金

京都市は、5月に「京都市文化芸術活動緊急奨励金」として、発表・制作等の機会を失っている文化芸術関係者の活動を支援するため、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しつつ、現下の状況において安全かつ適切に実施できる文化芸術活動（企画・制作・実施・リサーチ等）を募集し、審査のうえ奨励金を交付しました。HAPSは相談窓口の一部を担うとともに、「芸術家×仕事コーディネーター」（P16）の仕組みを通じ、広報用のビジュアル、リーフレットを制作しました。

アートワーク提供：黒川岳 広報物デザイン：金田金太郎



### 02 補助金や公募などの 情報提供の場にて、 相談員として協力。

2020年11月

#### 文化芸術関係者向けHAPS & 京都市文化芸術総合相談窓口 合同相談会

京都市文化芸術総合相談窓口が京都芸術センターにて相談会を実施。  
HAPSも参加し、創作や発表における日々の困りごと、支援情報の相談に応じました。

合同相談会

日時：2020年11月2日（月）13:00-17:00  
会場：京都芸術センター フリースペース他



## 03

## 芸術家に活動の場を提供する機会を様々に展開。

2020年12月～2021年3月末

### 京都まちじゅうアートプロジェクト

京都市、京都市音楽芸術文化振興財団、京都市観光協会、京都市芸術文化協会とともに、京都・まちじゅうアートフェスティバル実行委員会を構成し、京都市を拠点としている芸術家に活動の機会を提供すべく、様々な事業の展開に協力しました。

#### まちじゅうアーティスト事業でマッチングを支援!

COVID-19の影響により活動の機会が失われたアーティストに発表・活躍の場を提供し、京都市内各地で文化芸術の魅力を発信するため、アーティストと催しや企画を希望する施設とをマッチングし、出演料や展示に伴う経費を支援することで、アーティストの活動機会を創出する事業を受託。2021年3月末までに4件の展示が実現しました。

#### 京都まちじゅう文化芸術事業「KYOTO BASEd」の実施。

2020年7月、京都の創造発信拠点として活動する5団体（KYOTOGRAFIE 京都国際写真祭 / kumagusuku / THEATRE E9 KYOTO / 出町座 / CLUB METRO）と京都信用金庫が、社会的な芸術活動サポートシステムや普及プロジェクトの実現を目的として「BASE」を立ち上げました。HAPSでは「BASE」のプレ事業「KYOTO BASEd」に参画。各団体のイベントを統括した広報を担うとともに、HAPS HOUSEで「HAPS OPEN HOUSE」を開催し、HAPSの取り組みの紹介とゆかりのアーティストの作品展示、オンライントークを行いました。

#### 京都まちじゅうアートプロジェクト「光冠茶会 国際人類観測年」に協力!

コロナ禍の中、音楽や舞台など様々な文化芸術を一体感を持って楽しむことができる参加型イベントとして実施された「光冠茶会」。批評家の黒奇想が席主をつとめた「国際人類観測年」の企画にHAPSスタッフが参画しました。



#### HAPS OPEN HOUSEオンライントーク

2021年3月24日（水）Youtubeにてライブ配信  
17:00～「コーディネーション新時代」  
中田一會（きてん企画室）×奥山理子（SW/ACディレクター）  
19:00～「リフレクティブ・トーク」  
田中功起（アーティスト）×逸藤水城（HAPS代表）

#### HAPS HOUSEオープンデイ

日時：2021年3月26日（金）・27日（土）12:00～19:00

#### 京都まちじゅうアートプロジェクト「光冠茶会 国際人類観測年」

日時：2021年3月30日（火）19:00～21:30  
会場：ロームシアター京都ロームスクエア  
席主：黒奇想（批評家）  
特別映像ゲスト：阿保敏広（第62次南極地域観測隊越冬隊長）  
ゲスト：大石侑香（神戸大学大学院講師）／森下翔（大阪大学社会技術共創研究センター・特任研究員）／北田克治（国際日本文化研究センター内レストラン赤おに店長兼料理長、第38・45次南極地域観測隊越冬隊料理人）

#### 旅中の天 旅にでて、また旅にでる

参加作家：飯川雄大／川田知志／黒田大スケ  
会期：2021年3月27日（土）～7月4日（日）  
会場：RC HOTEL 京都八坂1Fロビー、301、302号室  
（※客室は宿泊客のみ公開）

#### 赤鹿麻耶 写真展 ときめきのテレバシー

マッチングアーティスト：企画・中村祐介（Happenings）／赤鹿麻耶  
会期：2021年2月25日（木）～3月22日（月）、3月24日（水）～4月19日（月）  
会場：ホテル アンテルーム 京都 GALLERY 9.5

#### Kyoto Crafts Exhibition DIALOGUE +

マッチングアーティスト：神馬啓佑  
会期：2021年3月5日（金）～3月28日（日）  
会場：ホテル カンラ 京都1F kanra shop

#### 片山達貴「息を録音する」

マッチングアーティスト：片山達貴  
会期：2021年3月12日（金）～3月14日（日）  
会場：外



# HAPSとは

アーティストとアーティストを支える人のための、  
よろず相談所です。

## 設立の経緯

京都市は、「京都文化芸術都市創生条例」に基づき、具体的な指針として策定する「京都文化芸術都市創生計画」（2007年3月）において、「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」事業を計画しました。2009年4月から調査を開始し、事業のプランニングに着手。2011年9月、上記事業を主として実施する組織として、各分野の専門家で構成する「東山 アーティスト・プレイスメント・サービス実行委員会」が設立されました。HAPSは、その略称です（読み：ハップス）。

2019年4月、HAPS事務局は一般社団法人HAPSとなりました。

## 京都のアーティストの場づくり支援

この困難な時代に生きる芸術家たちを支えること。それは、「美術」という一つのジャンルを守るのではなく、私たちの社会全体の豊かさを維持し、さらに新しい可能性を開いていくことにつながります。多くの芸術家がそこに住まい、生活している街。あるいは逆に、そこで暮らしている人間が芸術家になりうる、芸術家でありうる街。切実な表現、独創的な作品、かけがえのない営為が多くの人に見られ、共有されている街。HAPSは、個人の生き方と社会のあり方を組み替え、文化芸術が最大限のポテンシャルを発揮できる環境を京都市に作り出すことを、その目標としています。



## HAPSのミッション

### 芸術家支援

京都在住の芸術家たちの  
居住・制作・発表を包括的に支援する

### 地域創造

芸術家たちの創造性を  
京都市の活力へとつなぐ

### ネットワーク形成

国内外の芸術機関と  
多様な協力体制を構築する

### イノベーション活動

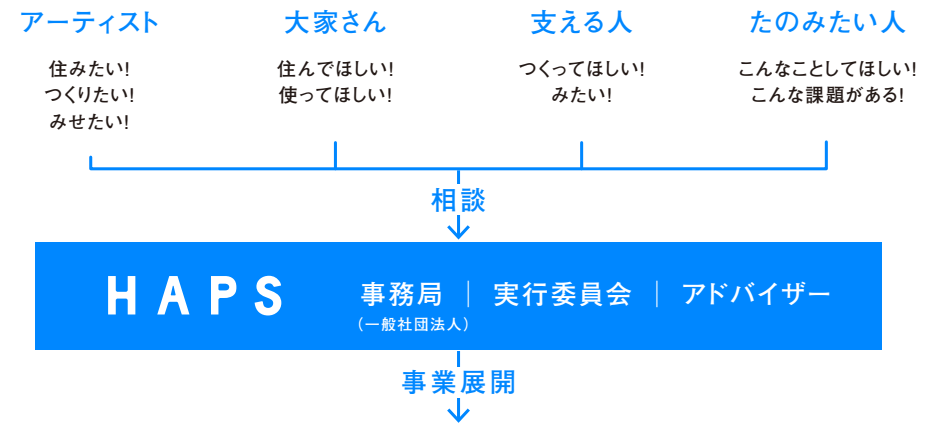
新たな芸術のあり方と、  
新たな社会のあり方を共に探求する



# About

# HAPSの支援活動とは？

HAPSの活動は、相談があって初めて成り立ちます。  
相談をきっかけに、様々な支援活動を展開しています。



## 物件マッチング

京都市で活動するアーティストには空き物件を、大家さんには入居希望のアーティストをマッチングします。制作・居住環境を探すアーティストの希望と、借り手を探す大家さんからの物件情報を集約し、両者の間をつなぎます。→P9

## キュレーター招聘

京都を拠点に制作活動を行う若手アーティストを紹介するために、国内外より第一線で活躍するキュレーターを招聘し、スタジオビジットやトークイベントなどのプログラムを開催します。この出会いを機に作家が企画展に呼ばれたり、国際的なアートシーンについて知ったりするきっかけにもなります。→P10

## HAPSオフィス・スタジオ

HAPSオフィスには、小さな展示空間、イベントスペース、中庭などがあり、事務所であると同時に、アーティストと彼らを支える人の交流を生む場所として、様々なプログラムを実施しています。また、閉校した元小学校の教室をアーティストのスタジオとして活用しています。→P19

## 地域との取り組み

京都市内の行政や地域団体などの要請で、地域の行事や活性化のためにアーティストによるワークショップなどをコーディネートします。作家の仕事コーディネートや発表の場づくりにもつながります。また、年間行事などを通して、オフィスやスタジオが位置する地域との顔の見える関係を築いています。→P16

## 芸術家×仕事

アーティストだからこそ、できることがある。これまでに培ってきた芸術家や専門家のネットワークを活かし、芸術家に仕事を依頼したい方とアーティストのための情報提供を行っています。アーティストへの「仕事」の依頼という支援が、新たな創造に結びつくことを期待しています。→P16

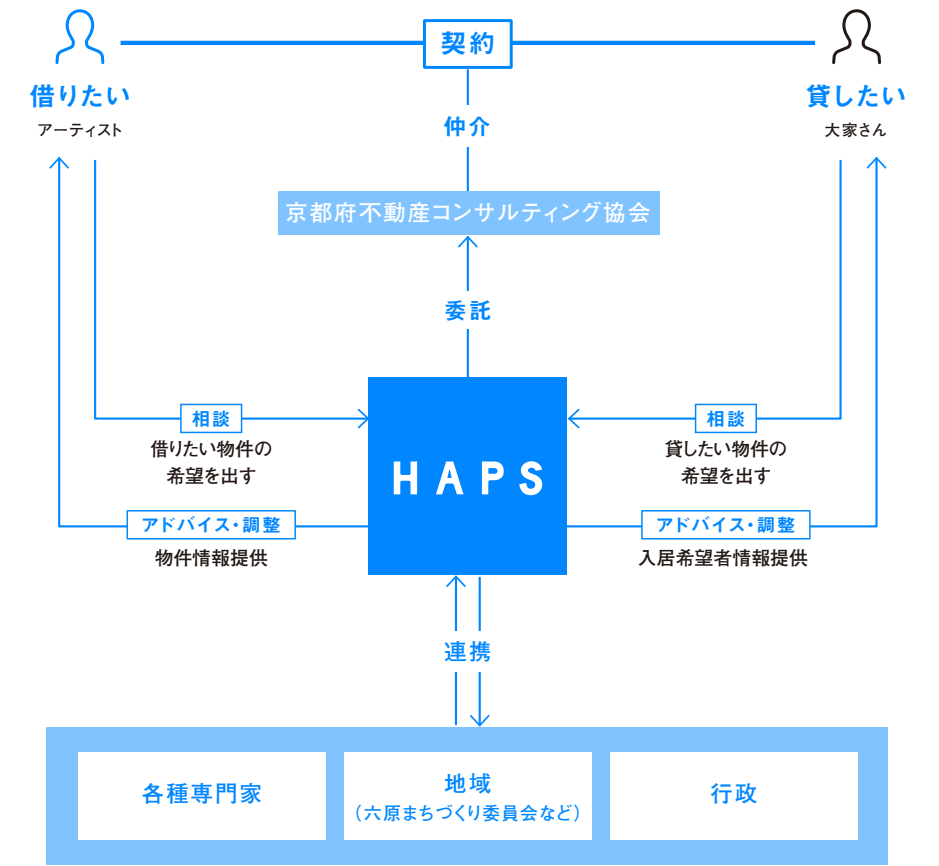
## アートと共生社会に関する取り組み

多様な背景をもつ人々が共に生きやすい社会の実現を目指し、アートに備わる特性を活かした様々な取り組みを実施しています。先進事例の調査、普及活動を行うとともに、モデル事業での実践、相談事業などを通じ、アートが社会の状況へどうアプローチし、力を発揮できるのかを考えています。また、それらに関わる人材の育成もめざしています。→P21

# Support

## 物件マッチング

京都市で活動をしていくアーティスト向けに、大家さんや不動産業者から寄せられた物件を紹介するマッチング事業をおこなっています。自分で改装してオリジナルの家をしたい、大きな音を出してもよい環境が欲しい、土間のある場所で制作したい等、アーティストの希望はさまざま。その一方で、家の一部を余らせていたり、ポロポロになって借り手がつかずどうしようもないと困っている大家さんが増えている現状もあります。それぞれの情報を集約し、双方の希望を聞きながら契約までをコーディネートします。



主催事業

## キュレーター招聘

国内外のキュレーターと  
京都のアーティストをつなぐ。

近年、展覧会などの企画を行うキュレーターの存在が注目を集めています。しかし、多くのアーティストにとって、キュレーターと直接対話し、知見を交わす機会は限られています。HAPS では、そのような機会を定期的に提供。国内外のキュレーターが京都のアーティストを知り、京都のアーティストが企画者の求めるものを知る。そこから具体的な展覧会やイベントに発展した事例も生まれています。

### 2020年度招聘キュレーター

服部浩之さん

(キュレーター／秋田公立美術大学大学院准教授／京都芸術大学客員教授)

山本浩貴さん

(文化研究者、アーティスト)



VOICE

服部浩之さん



私はアーティスト・イン・レジデンスや美術大学などに関わってきたこともあって、作家がどのように制作環境を獲得し創作活動を継続するかに大きな関心を持っています。お招きいただいたスタジオビジットはその関心に直結するもので、分刻みのスケジュールにより幅広い作家のスタジオを訪問する充実したリサーチとなりました。このような取り組みは作品の保存収集や展覧会を主軸にする美術館で大々的に実施するのは容易ではないだろうと思われます。柔軟で多様な活動を許容するアートセンターが大学と共同するからこそ実現できるユニークな取り組みだと実感しました。ぜひ今後も継続してください。

主催事業

## OUR SCHOOL

みんなで学ぶ、教える、共有する。

HAPS では、あらゆる人に開かれた学校「OUR SCHOOL」を開校しています。場所は、HAPS オフィスの1階。誰もが生徒にも先生にもなれ、知識や経験、技術を共有していく開放された学校を目指しています。「生きるために表現すること」と「生きることが表現であること」。このふたつを自由に往復することが私たちの生存につながります。

※2020年度はCOVID-19拡大の影響により開催がありませんでした。



参考：これまでのOUR SCHOOLのようす

# Projects



## 主催事業

# HAPS Web

<http://haps-kyoto.com/>

相談受付のほか、  
情報コンテンツも提供。

アーティストと支える人からの、物件や仕事の相談、その他よろず相談をウェブサイトのフォームから受け付けています。誰でも気軽にアクセスできるウェブサイトが、直面している問題を解決する第一歩となります。

他にも、京都市内の幅広いジャンルの展覧会・イベント情報をバイリンガルで提供する「ART Picks」、国内外の情報を集約した「公募・助成・レジデンス」、貸しギャラリーや空きスタジオ情報など、アートに関わる、アートに興味があるあらゆる人のための情報を提供しています。



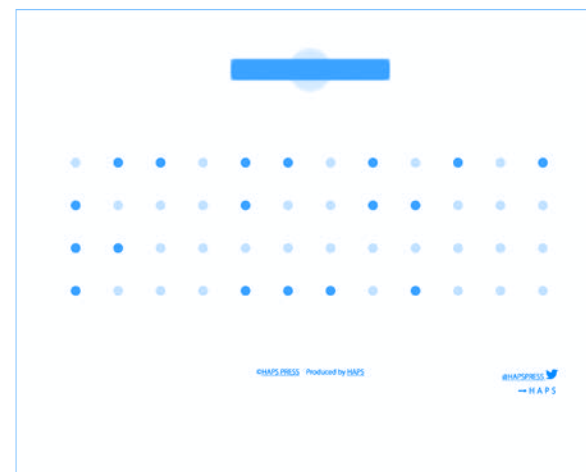
## 主催事業

# HAPS PRESS

<http://haps-kyoto.com/haps-press/>

芸術と社会の関係を  
実験的に考察していくための  
ウェブマガジン。

HAPSの活動の前提となる条件や事柄を再考し、それをHAPSの活動に還元する役割を持っています。リサーチ、インタビュー、エッセイ、レビューなどが、アーティストや研究者、専門家、市民など様々な立場の人々によって構成されています。「アーティストとは?」、「社会にとってのアートとは?」、「アートをサポートするとは?」という命題が複数の切り口から検証され、それが公開されています。このサイトは、HAPSの活動が常に反省と対話を必要としていることの表れであり、同時に社会一般に広く「アート」をめぐる状況と問題が共有されることを目指しています。



HAPS PRESSでは  
展覧会レビューを  
募集しています。

[http://haps-kyoto.com/press\\_writer/](http://haps-kyoto.com/press_writer/)

専門的である必要はなく、独自の観点で展覧会のレビューを書いていただける方を広く求めています。まずは、京都市内で見た展覧会のレビューを800字で書いてHAPSまでお送りください。

レビュー掲載箇所:  
[http://haps-kyoto.com/haps-press/exhibition\\_review/](http://haps-kyoto.com/haps-press/exhibition_review/)

## Projects

## 主催事業

# ALLNIGHT HAPS

2名の企画者による、  
オフィスでの夜通しの展覧会。

若手アーティストの発表を支援するとともに、若手企画者の養成を目的として、オフィスの玄関を小さな展示空間として、夜6時から朝9時半までの夜間に活用しています。毎年2名の企画者に依頼し、年に2つの企画で開催する展覧会です。2020年度はアーティストの小松千倫さん、佃七緒さんによる企画展を開催しました。

これまでに実施した企画についてはアーカイブのページをご覧ください。  
<http://haps-kyoto.com/allnight-haps-archive/>

### Part 1

#### 「Probable Cause」企画:小松千倫

会期:2020年8月16日(日)~12月31日(木)  
出展者:石毛健太/土井樹/中谷優希/濱田明李/  
原淳之助/松元悠/ψυχη

「距離について時間と空間の両面から考え」ることをテーマに、ガラス戸越しに鑑賞するという「ALLNIGHT HAPS」という展覧会が持っている骨組みを利用し、行為を実験することを通して行われた展覧会です。8月16日のスタート時点でHAPSギャラリースペースでのグループ展が完成していたわけではなく、16日から随時、小松が作家らとオンラインでのやり取りを重ね、グループ展示の実現を目指して様々なデモンストレーションやテストが行われ、それらのアーカイブが特設ウェブサイトにて公開・蓄積されました。最終的には8月と12月に2つのオンラインイベントを、また12月15日から参加作家の作品をHAPS 1階に集めたグループ展が開催されました。

キックオフイベント『LIVING ROOM 8(焚き火)』  
日時:2020年8月16日(日)18:00~20:30  
出演:AK/ψυχη/松元悠/原淳之助/小松千倫  
音響・配信:植松幸太

『LIVING ROOM 9(焚き火その2)』  
日時:2020年12月20日(日)15:00~18:00  
出演:AK/ψυχη/荒井優作/石毛健太/小松千倫/  
沢田朔(HAPS)/濱田明李/原淳之助/布施琳太郎  
音響・配信:小松千倫



### VOICE

#### 小松千倫さん

音楽家、アーティスト、DJなど領域も、住んでいる土地もばらばらな7名が参加したグループ展「Probable Cause」を開催した。このご時世、グループでの展覧会は開催しうのか?そもそも人が集うことはどうしたことなのか?という問いに対して主にオンラインで話し合い、実験し、アーカイブしていくという形態をとり、実際にHAPSでの展示という形態をとったのは年末の2週間だけであったが、様々なツールを使って、HAPSスタッフの沢田さんのご協力のもと、メンバーと試した複数のテストとそのやりとりは密だった。それらは本展のウェブサイト(probable cause.space)に集約されている。ここに集まった未然のかけらたちが実際に様々な距離へと開かれるのを見届けるために、プロジェクトを続けたいと思う。



### Part 2

#### 「翻訳するディスタンス」企画:佃七緒

プロジェクト期間:2020年6月~12月(翻訳のための対話)/2021年1月~3月(HAPSギャラリー展示)

人と人が接触するとき、作品と人が接触するときには発生する「翻訳」について、実際に作家と企画者、翻訳者が共同で行うことで再考を試みる企画です。作品や自身の活動についてのテキストを「翻訳」したい作家を広く公募し、必ずしも美術を専門としない第三者を介入させ、約半年に渡る対話を行いました。作家と対話者とのメモ、記録などは「翻訳するディスタンス」特設ウェブサイトでご覧いただけます。  
<https://allnighthaps2020.o0o0.jp>

第1期 1月15日(金)~1月26日(火)  
《形代 - constellation》点をつなぐ  
作家:小出麻代  
協力者:山森裕毅

第2期 1月29日(金)~2月9日(火)  
《Thinking in the Midnight》  
作家:長谷川由貴  
協力者:三林寛子/石井佑基

第3期 2月12日(金)~2月23日(火)  
《good conversation》  
作家:小林太陽  
出演:具本媛/朴徹雄/周すみん

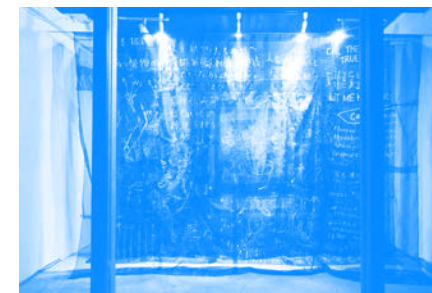
第4期 2月26日(金)~3月9日(火)  
《To see my reminiscence thro' your eyes》  
《あなたの目を通して故郷を見る》  
作家:村上美樹  
協力者:三浦隼暉

第5期 3月12日(金)~3月23日(火)  
《生活の知恵(生きる技術)》  
作家:西尾佳織  
協力者:小島尚人/手塚夏子/石見舟/大泉七奈子/  
アレハンドラ・アルメンダリス・ヘルナンデス/大道寺梨乃

### VOICE

#### 佃七緒さん

「翻訳」は、呼びかける人/呼びかけられる人がいる際に生じ、言葉が伝わったり伝わらなかったりすることで、相手との距離(状況の違いや関係性そのもの)を表出させる。と本で読んだその頃、「ディスタンス」という言葉が世間に蔓延しはじめ企画は開始した。企画の進行中、作家は現在の自分と他者・過去の自分・物・イメージ等との間に「同じ?」や「違う」「近い」「遠い」などの距離を感じ考える。進行形のディスタンスは、その都度両端に別の人や物を据えて、私一人では言えないトピックやテーマを発生させ続ける。既存の枠組みや分類に自分を当てはめるための「ディスタンス」を考えるのではなく、作る人として、作るもの・見せる人・生きることの距離の取り方を考える。たくさんの対話の場に立ち合い、わたし自身たくさん考える時間をいただきました。



## 主催事業

# 芸術家×仕事コーディネート事業

アーティストだからこそ、できることがある。

閉塞感や社会的な分断が私たちを取り巻いています。文化や芸術は、このような時にこそ、新しいヴィジョン、価値観、世界像を提供することが求められています。しかし、文化産業として高度にシステム化されている現行のアートシステムでは、そのような根源的な芸術の営みが生まれづらい状況になっています。

そこで私たちはアーティストに期待をかける新しい方法論を提案します。それは、新しいパトロンが新しいアーティストを生み出すというものです。

レオナルド・ダ・ヴィンチは単なる画家ではなく、建築や科学を含めた総合的なアーティストであり、それを支えていたのはパトロンたちでした。現行の美術館やギャラリーとは違う回路で、アーティストが「作品」を成す可能性を想定してください。HAPSはそれを支援する方を募集いたします。

間違っほしくないのは、このプログラムはアーティストのクリエイティビティを部分的に利用することを目的としていません。装飾やデザイン、コンテンツの提供や集客のための視覚的要素の導入などは、アートの道具化でしかありません。そうではなく、クリエイションそのものの必然性を掘り起こしたいのです。閉塞した状況を打破すること、全く新しいヴィジョンを提供すること、無根拠な創造性を擁護すること、自由とは何かを具体的に示すこと。こういった根本的なことを芸術家に求めたいのです。そういったニーズが存することが可視化すれば、それに応えうる芸術家も生まれてくることでしょう。

以上が本プログラムの主旨になります。主旨自体はいささか理想主義的ですが、運用に際しては実践的なシステムを準備しています。

## ウェブサイト

<http://haps-kyoto.com/work/>

コンセプトとともにアーティストと支援のあり方を巡る考察の場として、様々な方へのインタビューやエッセイを掲載。随時公開していきます。

# Projects

## 仕事を依頼したい方

ウェブサイトの「仕事を依頼したい方」のバナーから「仕事情報登録フォーム」に進み、依頼したい内容、契約形態・報酬などを具体的に登録してください。内容をHAPSで審査した上でアーティストに仕事情報を提供します。

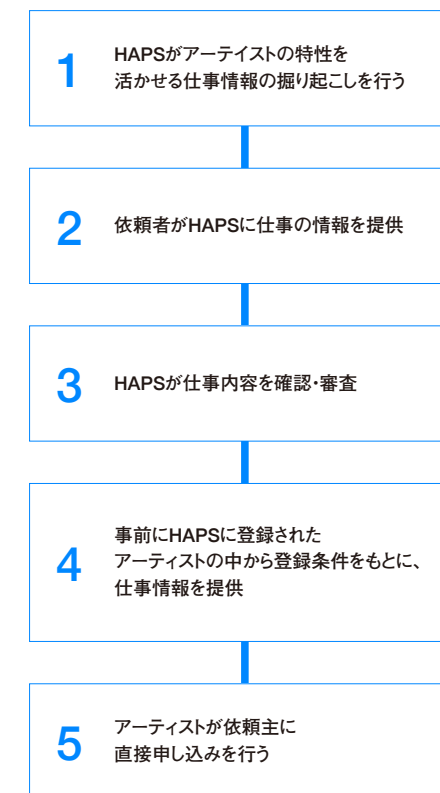
## 依頼を受けたいアーティスト

ウェブサイトの「依頼を受けたいアーティスト」のバナーから「アーティスト情報登録フォーム」に進み、自身の活動のジャンル、プロフィール、作品の概要や活動歴を登録してください。HAPSが仕事の情報提供を受け、該当する情報をお知らせします。実際に仕事を受ける際には、依頼者に直接申込をしていただきます。

## 2020年度に実施したコンテンツ

「京都市で活動するアーティストのための所得税確定申告入門講座2020年度版」  
大川 聡(税理士)

## 情報提供の流れ





事例紹介

## 京都文学賞受賞作の出版に際して 装画の制作をマッチング。

### 京都文学賞 | <https://kyotobungakusyo.com>

昨年度、ロゴとイラストレーション制作のマッチングを行なった「京都文学賞」。その一般部門最優秀賞受賞作『羅城門に啼く』の刊行に際して、日本画家の服部しほりさんとのマッチングを行い、装画を制作しました。



VOICE

#### 服部しほりさん



栄えある第一回京都文学賞受賞作品の書籍装幀を担わせて頂けたことは、わたしにとりまして大変深い経験となりました。作品を熟読し、汲み取り、活かすべく仕上げることはまさに心の仕事です。

一人きりの創作とはまた異なる、多くの人の願いを乗せた作品制作には相応の緊張と苦悩がありました。仕上がった書籍を手に取り、感慨無量であったこと記憶に新しいです。

このような機会へ結んで下さいましたHAPSさんには心より感謝を申し上げます。

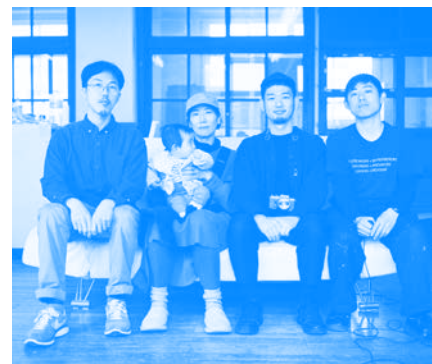
# Projects

## HAPS スタジオ

HAPSでは、元小学校の教室を  
アーティストのスタジオとして活用しています。

京都を拠点に活動していく美術系アーティストのために、元小学校の教室を利用した制作スタジオを提供、運営しています。2012年12月から使用した東山区にある元新道小学校の教室は2020年3月をもって運営を終了し、2021年4月からは、北区の元楽只小学校を活用した複合施設内の6室を制作スタジオとして活用します。

### スタジオ使用者紹介



VOICE

#### Homesick Studioさん

2017年、暗室があった大学の校舎が取り壊しとなり、機材を移設できる場所を求めてHAPSスタジオに応募したのがHomesick Studioのはじまりでした。市街地に落ち着いた制作環境があるという非常にありがたい条件のスタジオで、撮影やレジデンスなどで京都を離れることもあり、毎日通えたわけではありませんでしたが、スタジオの暗室に入ってプリントしながら過ごす時間はとても幸せでした。また、HAPSスタジオを通して多くの人たちとの出会いがあり、それらの関係は今後も何らかのかたちで続いていくと思います。桜も咲いていますし、卒業して感じがします!今後も積極的に活動していきます!4年間ありがとうございました!

#### Homesick Studio (ホームシック スタジオ)

写真を扱う4名のアーティスト、成田舞、堀井ヒロツグ、前谷開、守屋友樹による共同スタジオ。写真現像用の暗室やスタジオを共有し、それぞれ写真、映像、テキストなどの作品制作を行う。

集合写真左より守屋、成田、堀井、前谷

## スタジオ使用者紹介



### 川田知志

1987年大阪府生まれ。2013年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)修了。壁画技法をもとに、展覧会や委託制作を通して都市空間へ働きかける実践を行う。壁画を空間の帰属から切り離し自律させることから、壁画の新しい可能性も模索している。2019年1月、京都市芸術新人賞受賞。

### HAPSスタジオは新しい場所へ

2019年3月に開校した、元楽只小学校（北区）を活用した複合施設「ふれあい共生館」内に2021年度から制作スタジオをオープンします（全6室）。

#### VOICE

### 川田知志さん

HAPSスタジオでの3年、3年前は僕がちょうど30歳になりたての年で、作家活動についていろいろと考えている時期でした。表現を深める時間と空間が十分に確保され、とてもいい時期に盛んな制作をさせてもらえました。さらに京都の中心地でしたので、京都拠点の作家との交流が以前よりたくさんできました。そして深夜ラジオのアーカイブを聴きながら制作する習慣ができました。最初の年は、初めての個展を開催し、中国へレジデンスに参加、次の年は、ポーランドの展覧会に向けた作家との交流や現地での共同制作、個人では、一つ軸になる題材との出会いがありました。そして最後の年は、時間をかけて自分の活動を振り返る1年でした。感染拡大防止のため、5月にスタジオが閉鎖、今思うとそうなのは、もどかしい日々が続いたことが要因です。改めて自分の生活の重心がHAPSスタジオに置かれていることに気づかされました。活動の拠点を移します。現在、このテキストは、提出期限をはみ出しながら元新道小学校の教室内で書いています。いつも聞いていたラジオは、荷物のなくなった部屋で反響します。今まで散々居た場所なのに、居心地の悪さをなんとなく感じはじめています。HAPSスタジオには大変お世話になりました。この3年間、感謝しかありません。これから社会と接し、作家として堂々と世間に立ち向かうため、ここで得た経験を糧にして、なんとかして作家活動を続けようと思います。



# Projects

# 文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業

アートので社会課題に向き合う。

HAPS は、京都市より 2017 年度「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」、2018 年度「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」を受託し、実施しました。この事業は、文化芸術の力を活用して、多様な背景を持つ人々が、共に生きることのできる社会のあり方を探り、その仕組みづくりを目指すものです。昨年度からはそれらの成果を引き継ぎ「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」として事業を展開し始め、今年度で4年目となります。

2020 年度は、「文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門」と題した全5回の連続講座をオンラインで開催するとともに、崇仁地区にてモデル事業を展開。相談事業「Social Work / Art Conference (SW/AC)」も本格的に活動を開始しました。

#### 連続講座

## 文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門

主に福祉の現場でアートを活かした実践に取り組む方々のお話をお伺いし、これからの実践にアートを取り入れていく人々や分野の裾野を広げることを目指しました。各講座の終了後には、「Social Work / Art Conference (SW/AC)」の奥山理子、小泉朝未による「談話室」として、日々の活動の悩みごとなどを、ざっくばらんに話し合うという企画も行いました。

- ・第1回講座 ゲスト淡路由紀子(特別養護老人ホーム グレイスヴィルまいづる)  
日時:2020年11月12日(木)19:00~20:30 / 進行:中川真
- ・第2回講座 ゲスト今井利華(きょうとWAKUWAKU座)  
日時:2020年11月26日(木)19:00~20:30 / 進行:中川真
- ・第3回講座 ゲスト花岡伸宏(彫刻家)  
日時:2020年12月10日(木)19:00~20:30 / 進行:蔵原藍子
- ・第4回講座 ゲスト木戸玲子(京都市修徳児童館)  
日時:2020年12月17日(木)19:00~20:30 / 進行:中川真
- ・第5回講座 ゲスト小笠原邦人(総合福祉施設 東九条のぞみの園)  
日時:2021年1月14日(木)19:00~20:30 / 進行:中川真



## モデル事業

### 「崇仁すくすくセンター」「糸染め」「巨人の歯と眠り」

アーティストの山本麻紀子による、変わりつつある崇仁地域で生きてきた植物の命を挿木でつなぐプロジェクト「すくすくセンター」を実施。また、自身の作品である《巨人の歯》とともに、解体前の市営浴場、市営住宅、元崇仁小学校での眠り、また敷地内の植物から糸染めを行い、眠りの際に見た夢をもとに、糸や布から作品へと展開していきます。

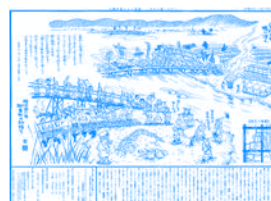


## モデル事業

### 「タイルとホコラとツーリズム」season8 〈七条河原じゃり風流〉

高齢者が多く居住し、2023年度に京都市立芸術大学が移転予定である崇仁地域の風景は、現在大きく変わりつつあります。アーティストの谷本研と中村裕太とともに、この変わりゆく地域のなかで、砂持ちやお地蔵様にまつわる逸話を伝える「かわら版」を発行し、崇仁地域の全戸へお届けし、地域内の公共施設や飲食店で掲示・配布しました。加えて、お地蔵様を表現した大型幕を制作し、地域内にある市民活動センターの外壁に展示しました。

崇仁のお地蔵様の幕とかわら版の屋外掲示  
展示会期:2021年3月20日(土)~5月5日(水)  
展示場所:京都市下京いきいき市民活動センター



かわら版の発行と掲示  
発行日:その一 2021年2月28日(日)「かわら版発行の辞」(砂持ちについて)／その二 2021年3月6日(土)「崇仁学区のお地蔵様」(地蔵祠分布図)／その三 2021年3月13日(土)「お地蔵様は移動する」(青いモザイクタイルのホコラ)／その四 2021年3月20日(土)「労働と祝祭」(じゃり持ちすごろく)

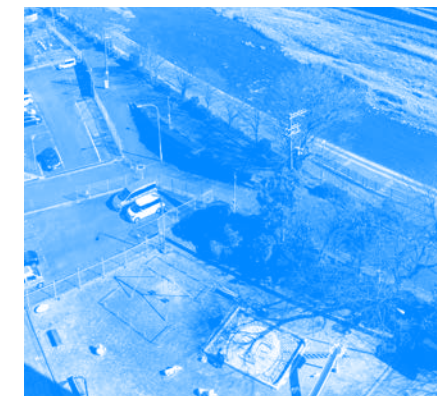


## VOICE

### 谷本研+中村裕太さん



僕たちは崇仁地域の地蔵祠にまつわる調査をおこない、4週に渡ってかわら版を発行した。その束をカバンに詰め込み、同地域の全てのお宅にポスティングした。立ち退きの進む団地では、ポストの多くがテープで塞がれていた。いくつかの開いた投函口に、作品をすっと差し込むと、その向こうに息づく住人の暮らしに触れた感覚がした。かわら版の記者の視点と、配達員の立場から、刻々と変化していく地域を垣間見ることができた。





相談事業

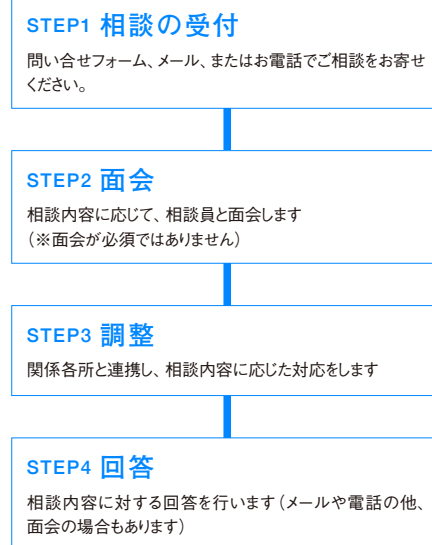
## Social Work / Art Conference (SW/AC)

東九条で相談事業を行っています。

Social Work / Art Conference (SW/AC) は、2020年6月に多様な分野とアートを繋ぐための相談事業として開設しました。SW/ACでは、個々の人間の尊厳や価値を擁護するソーシャルワークの理念を参照しつつ、相談者らとアートや表現についての対話を重ねながら、新たな相談機能をつくり出すことを目指しています。開設年の今年度は、福祉の領域から、文化芸術との関わりによってこれまでとは異なる形で課題に取り組みたいといった相談が寄せられ、課題の聞き取り、取り組みに向けたチームづくり、進行管理、アーティスト等を繋ぐといったコーディネートを行いました。またアーティストや文化芸術系団体からは、福祉や福祉に近接する事柄についての意見交換の相手役となり、プログラムや施設の運用方法についてアドバイスをしたり、当事者や支援団体等を紹介したりしました。相談者や関係者との目的の共有を常に意識しながらも、分野によって情報収集や合意形成の回路が異なるために、その中間の立場で各者のニーズを汲み取ったり、互いの言語を翻訳したりする必要性を感じ、継続的な支援者としての役割を実感した一年となりました。



### 相談の流れ

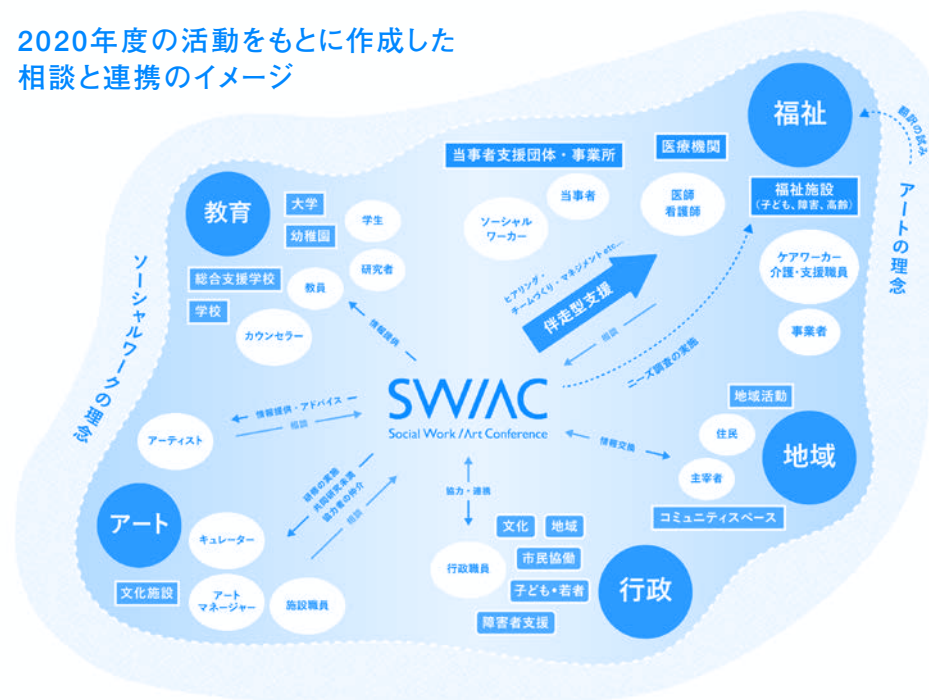


※相談は無料です。※京都市内に関する相談を優先いたします。

#### Social Work / Art Conference (SW/AC)

〒601-8004  
京都市南区東九条東山王町1 HAPS HOUSE  
T 075-748-8575  
swac@haps-kyoto.com  
<http://haps-kyoto.com/swac/>

### 2020年度の活動をもとに作成した 相談と連携のイメージ



### 相談いろいろ

◎高齢者や介護をテーマにした絵本を制作したいが、経験がないので教えてほしい。◎発達障害の診断、特別支援学校での教育、ひきこもり当事者のカウンセリングを行っている。こうした現場でのアート活動の特徴や魅力を知りたい。◎美術館で初めて障害のある人の作品展示を行うことになった。基礎情報やノウハウがないのでコーディネートをしてほしい。◎「福祉」「介護」がテーマのフォトコンテストの審査員として写真家を紹介してほしい。◎幼稚園関係者が集まる講演会で、子どもを対象としたアートプログラムの可能性をテーマに話してほしい。◎社会貢献事業として、駅構内の広告枠を使って障害のある方のアートを発信したい。◎就労がうまくいかず引きこもりがちだが、ほぼ独学で絵をずっと描いている。自分の作品を通じて交流できる機会を紹介してほしい。 etc...

### 京都市内の福祉施設等の文化芸術活動の状況についての調査を行いました

京都市内の社会福祉施設等のうち、高齢者施設、障害者施設、子ども・子育て支援施設等を対象に、文化芸術活動の状況についての調査を実施しました。調査結果からは、施設で文化芸術活動を実施する際の支援ニーズが浮かび上がりました。調査結果はウェブサイトにも全編公開しています。



[http://haps-kyoto.com/swac\\_research2020/](http://haps-kyoto.com/swac_research2020/)

# 協力事業

2020年度、HAPSが関わった企画の一部を紹介します。

ロームシアター京都の「地域の課題を考えるプラットフォーム」は、地域と劇場の双方向的なコミュニケーションを促進させるため、2017年度から実施しているプロジェクトです。2019年度、2020年度を通じて、誰にでも開かれた劇場のあり方を模索、実践しています。市内福祉施設や当事者団体とのコーディネートに長澤結一郎（九州大学大学院芸術工学研究員 助教）とともにSW/ACが協力し、作品上映にあわせて実施されるレクチャーとシンポジウム、ディスカッションの進行を担当しました。



ロームシアター京都

## 地域の課題を考えるプラットフォーム

劇場で考える。支えること、支えられること—

舞台作品『Pamilya (パミリヤ)』の映像上映と関連プログラム

2020年11月13日（金）～11月15日（日） | 会場：ロームシアター京都ノースホール | 主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団） / 京都市 | 舞台作品『Pamilya (パミリヤ)』映像上映（演出 | 村川拓也） | 11月14日（土）レクチャー【日本の介護現場における外国人介護士について】 | 講師：カルロス マリア・レイナルース（龍谷大学教授） | 11月15日（日）シンポジウム「介護と家族について」 | パネリスト：菅野優香（同志社大学大学院准教授）、河本歩美（高齢者福祉施設 西院 所長）、渡邊琢（日本自立生活センター介助コーディネーター）

# Cooperation

令和2年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」

## 「CONNECT ⇄」～芸術・身体・デザインをひらく～

京都国立近代美術館ほか京都・岡崎公園一帯の文化施設が連携し、障害のあるなしにかかわらず、さまざまな感性、特性を持った人たちが芸術や文化、歴史にアクセスし、つながり合い、気づきを与え合う機会となることを目指すプログラムです。多数のプログラムが実施されましたが、うち下記の3つのプログラムにSW/ACが協力しました。



1 京都市京セラ美術館 三人のガラス・リボン

会期：2020年12月3日（木）～20日（日）  
会場：京都市京セラ美術館 ガラス・リボン

2 京都市京セラ美術館 美術館のどうぶつ園

会期：2020年12月3日（木）～20日（日）  
会場：京都市京セラ美術館 エントランス周辺

3 ロームシアター京都 演劇ワークショップ

「岡崎地域をガイドする」  
日時：2020年11月21日（土）・22日（日）各13時～15時【全2回】  
会場：ロームシアター京都 会議室2

## 楽只アートワークショップ

2021年度よりHAPSスタジオが入居予定の複合施設「ふれあい共生館」に移転する北いきいき市民活動センターからの相談で、地域のこどもを対象に、美術作家の谷澤紗和子さんによるワークショップをコーディネートしました。制作した作品は楽只児童館に展示予定です。



楽只アートワークショップ

実施日：2021年3月26日（金）  
会場：高齢者ふれあいサロン  
ワークショップ企画・制作：谷澤紗和子

# HAPS事業評価調査報告 山田創平(京都精華大学教授)

## 1) はじめに

HAPS ではこれまで毎年、大学と市民に対するアンケート調査（量的調査）を実施し、事業の効果評価を行ってきた。しかしながら2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で例年通りの調査が実施できなかった。よって本年は遠隔でも実施可能な調査としてインタビューデータを用いた質的調査を実施した。

## 2) 調査目的

本調査の目的は以下の通りである。HAPS は非常に大きく言うと、芸術と地域との間に何らかの相互作用の可能性を見出し（あるいは芸術と地域との間には、これまで常にもすでに相互作用があったという現状を確認し）、さらにはその知見を踏まえうえて、芸術と地域との間に何らかの「効果」を及ぼそうとするプロジェクトと言える。本調査では、実際にHAPSと関わり、スタジオ利用などを通して地域社会と関わったアーティストにインタビューを行うことで、アーティストの創作活動とローカリティ（地域性）との間に、どのような相互作用が存在するのかを分析する。またそのような関係性の中で、HAPSがどのような役割を担っているのかを考察する。これらの知見は、HAPSのこれまでの活動や、今後の方向性を考える上でも有意義である。

## 3) 調査概要

インタビューは2021年1月から3月の間に実施した。インタビュー協力者は6名であった。インタビュー実施にあたってはインタビューガイドを作成した。インタビュー調査は遠隔で実施され、インタビュー協力者の理解を得たうえで録音された。インタビュー実施に際しては、以下の項目について説明し、かつ書面を提示したうえで、理解を得た。

【インタビュー実施に際して理解を得た項目】○研究の目的と方法 ○研究期間 ○研究を実施する研究者（研究代表者） ○インタビュー内容について（インタビューガイドの事前提示） ○研究への参加の任意性（説明を聞いた上での研究への不参加、インタビュー途中での研究への不参加が可能であること、謝礼に関する説明） ○個人情報の取り扱い（本研究以外にデータを用いないこと、研究終了後にデータを消去すること） ○研究終了後の対応・研究成果の公表について ○問い合わせ先

インタビューガイドに盛り込まれた質問項目は「属性（年齢、居住地、居住形態、収入に関する事項など）」「アーティストとしての活動歴」「HAPS とのかかわり」「制作における地域の重要性（作品制作において地域社会が持つ意味、日本の地域社会についての印象、作品制作において地域と関わる際のメリットとデメリット、作品が地域社会に及ぼした影響など）」「今後の制作について」であった。

## 4) 分析方法

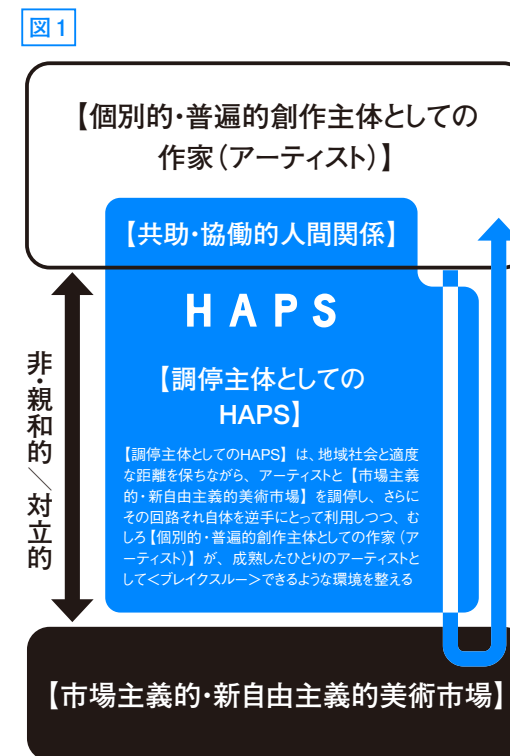
インタビューは録音され、文字起こしにより逐語録が作成された。その上で、QDA ソフトウェア（Nvivo）に取り込み、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、及びその修正版（木下、1999、2003、2005）の基本的な手続きにもとづいて切片化せずに概念化を試みた。概念生成の過程で随時理論的メモを残し、概念間の関係を検討しカテゴリを生成した。さらに概念の生成と概念間の関係にこれ以上の解釈余地が考えにくくなった段階で分析終了と判断した（理論的飽和）。

## 5) 分析結果

分析の結果、「アーティスト」と「地域（地域社会）」「HAPS」との間の影響関係を説明し得る4カテゴリと13概念が抽出された。詳細は結果図として図1に示す。以下では、カテゴリは【 】、カテゴリを構成する概念は< >、実際のインタビューテキストは「 」の中に斜体で記述する。

### 5-1) 結果図

図1について説明する。まず【個別的・普遍的創作主体としての作家（アーティスト）】が存在する。それと親和性の高いカテゴリとして【共助・協働的人間関係】が存在する。一方、上記2カテゴリと対峙するカテゴリとして【市場主義的・新自由主義的美術市場】が存在する。そしてそれら大きな2つのカテゴリ群の間に【調停主体としてのHAPS】が存在している。【共助・協働的人間関係】と【調停主体としてのHAPS】の間には深い関連性がある。【調停主体としてのHAPS】は、地域社会を舞台としつつ、地域社会と適度な距離を保ちながら、アーティストと【市場主義的・新自由主義的美術市場】を調停し、さらにその回路それ自体を逆手にとって利用しつつ、むしろ【個別的・普遍的創作主体としての作家（アーティスト）】が、成熟したひとりのアーティストとして<ブレイクスルー>できるような環境を整える。以下、詳細を述べてゆく。





## 【5-2】ストーリーライン

以下でストーリーラインを示す。結果図で見たように、インタビュー結果からはまず【個別的・普遍的創作主体としての作家（アーティスト）】と、そのカテゴリと親和性が高い【共助・協働的人間関係】の2カテゴリを見出すことができた。また同時に、上記2カテゴリと相対するカテゴリとして【市場主義的・新自由主義的美術市場】のカテゴリが位置づけられる。そしてその中間に見出された【調停主体としてのHAPS】カテゴリは、【共助・協働的人間関係】と深く関係し、その内実を体現しつつ、上記性質の異なる2つのカテゴリ群をつなぎ、そこで生じうる様々な葛藤や不調和を調整し、調停するという役割を果たしている。以下、カテゴリを構成する＜概念＞も交えながら整理する。

まず前提として存在するのが【個別的・普遍的創作主体としての作家（アーティスト）】のカテゴリである。このカテゴリは＜個別性＞＜説明困難性＞＜インスピレーション＞＜ハブニング＞の4概念によって構成される。上記カテゴリと親和性が高い【共助・協働的人間関係】は＜贈与＞＜相対化＞の2概念によって構成される。そして上記2カテゴリ、6概念と対立するカテゴリである【市場主義的・新自由主義的美術市場】は＜競争・自己責任＞＜男性・中心・東京＞＜地域振興・観光＞の3概念によって構成される。そしてその中間に見出された【調停主体としてのHAPS】カテゴリは＜よろずや＞＜ブレイクスルー＞＜ケア＞＜地域との距離感＞の4概念によって構成される。

カテゴリ構造の基底に存在する【個別的・普遍的創作主体としての作家（アーティスト）】は、あくまでも独自の存在であり、市場とは隔絶している（＜個別性＞＜説明困難性＞＜インスピレーション＞＜ハブニング＞の4概念はその市場との隔絶を象徴する概念群である）。このカテゴリは極めて個人的で個別的で、普遍を志向するものだが、その内実は【共助・協働的人間関係】によって支えられ、＜贈与＞的な人間関係と、そこでの多様な人間関係のもたらす創作活動の＜相対化＞によって存在可能となっている。一方で、作品を発表し、制作によって金銭を得るという営為は【市場主義的・新自由主義的美術市場】とのかかわりの中で実現しうる。だがこのカテゴリの内実は＜競争・自己責任＞＜男性・中心・東京＞＜地域振興・観光＞であり、【個別的・普遍的創作主体としての作家（アーティスト）】や【共助・協働的人間関係】というカテゴリとは対立的である。

【調停主体としてのHAPS】はその対立を橋渡しする存在として立ち現れる。【調停主体としてのHAPS】カテゴリを構成する＜よろずや＞＜ブレイクスルー＞＜ケア＞＜地域との距離感＞の4概念は、【共助・協働的人間関係】カテゴリの具体的・制度的実践として見ることができ、具体的・現実的に、上記のような対立のカテゴリ構造を調停し、アーティストを支援する上で重要な役割を果たす。以下において実際のインタビューデータを確認しつつ詳述する。

## 【5-3】カテゴリを構成する概念の詳細

### 【個別的・普遍的創作主体としての作家（アーティスト）】

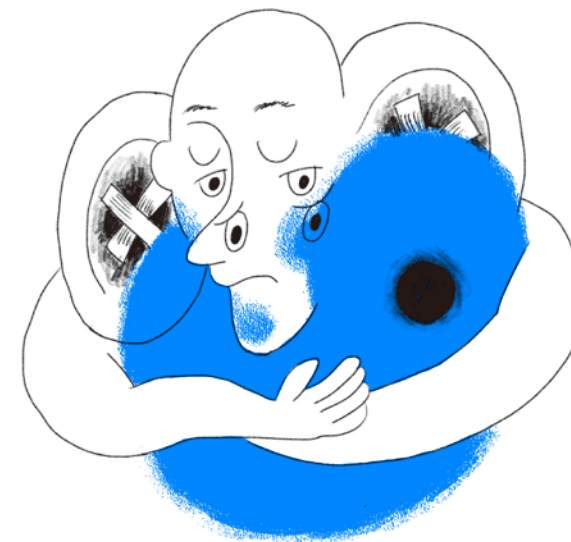
カテゴリを構成する概念は＜個別性＞＜説明困難性＞＜インスピレーション＞＜ハブニング＞の4つである。これらの概念は、例えば以下のような語りに現れる。ここでの語りの特徴は、語りが極めて個人的である点、そして語りが個人的であるがゆえの（語りが自己原因的であるがゆえの）、説明の難しさである。そこには芸術のみならず、社会や人間に対する原理的で普遍的な問いがある。これらの感覚は説明が難しいがゆえに、できごととはインスピレーションやハブニング／偶然性によって捉えられる。

#### ＜個別性＞に関する語り

「自分の中では、なんか割とあの、すごく集中して、周りの音も全部遮断してというか、そうですね、他の人の話も聞かずにやっていたんですけど、その時はすごくいいものを作っているっていう感覚で自分がいても、どうしてもそれが冷めて、あとから作ったものとかを見ると、すごく独りよがりだったりとか、自分がある、その時に伝えたいことが全然伝わらなかつたりっていうそういう失敗、失敗というかそういう経験があったのもありますね」

「私が作ったもので人の気持ちに影響を与えられて、なんかその人が動き出せるというか、こんなことできるんやったら、私これを一生やっていきたいと思って、美術の大学に行きたいなって思ったんですね。」

「なんか私わりと一人であるのが好きっていうか、なんかうーん、好きとは違うんですけど、団体行動苦手なところが多分あって、あんま地域とかいう単位で執着がないっていうか」



### <説明困難性>に関する語り

「おそらく自分のやってる美術とか、自分の作品への。なんていうのかな、姿勢みたいなこととかにまあちょっと一回疑問がついちゃったんですよね。」

「本当にどの地域でも、絶対に一概に何も言えないし、そもそも地域の人って、何を指すのかっていうことも、なんか考えたりします。」

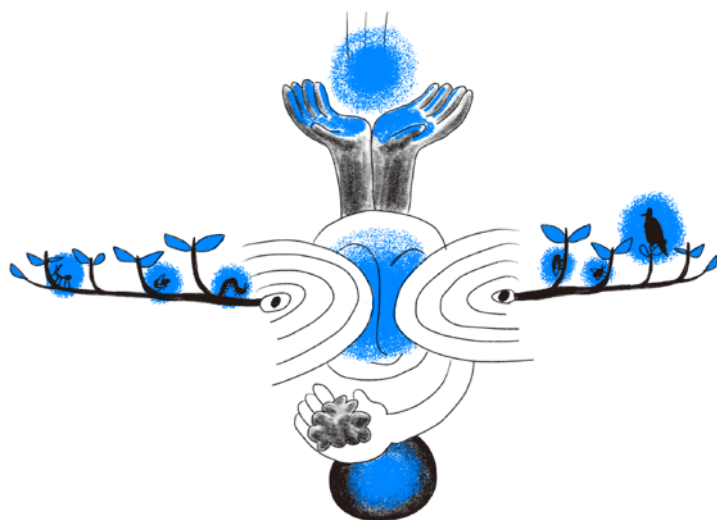
### <インスピレーション>に関する語り

「ある特定の事項を深掘りしていくと、その、地域とかその独自のものみたいなものが出て来るっちゃあ出てくると思うんですけど、まあなんかそれを掘り起こし、もう一個突き抜けると、(中略)個別のローカルそれぞれをつなぐような共通の問題っていうのが出てくるなと思うんです。」

「私は全然、靈感とかスピリチュアルなものはないと思うんですけど、(中略)イメージが降ってきたんです。」

「毎日ここに来てる生き物たちに目が向いたりとか、そこで感動したりっていうようなことと、えっとまあ、なんかこう人間が、今でも人間が自然に対してできることはいっぱいあると私は思ってるんです。」

「オブジェっていう造形性を排した、テストピース的なものに非常に魅力を感じたっていうところ、なんか今まで自分が背負ってきたというか、なんかこだわりを持っていたオブジェとクラフトっていうものから、脱していける、平面な、平面の板みたいなもの、それで充分なんだみたいなことがなんとなくわかってきて」

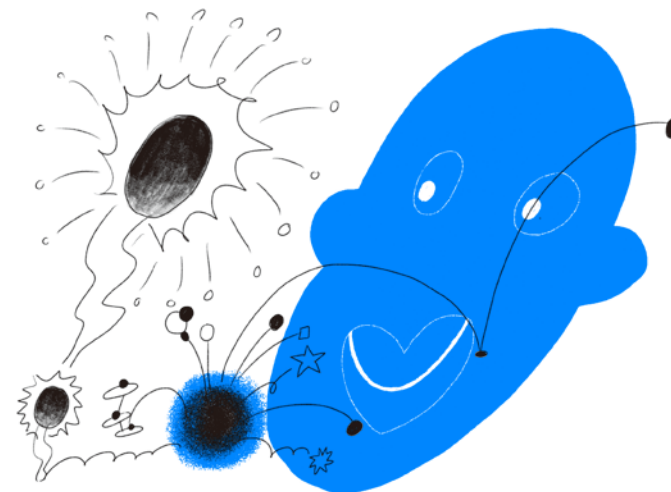


### <ハプニング>に関する語り

「だからつまり、探しに行くって言うよりかは、多分自分が連れて行かれた場所であるとか、まあ関係を結んだ人とのやり取りの中で、結構そういうものはゴロゴロ転がってるなと思ったんですよ。」

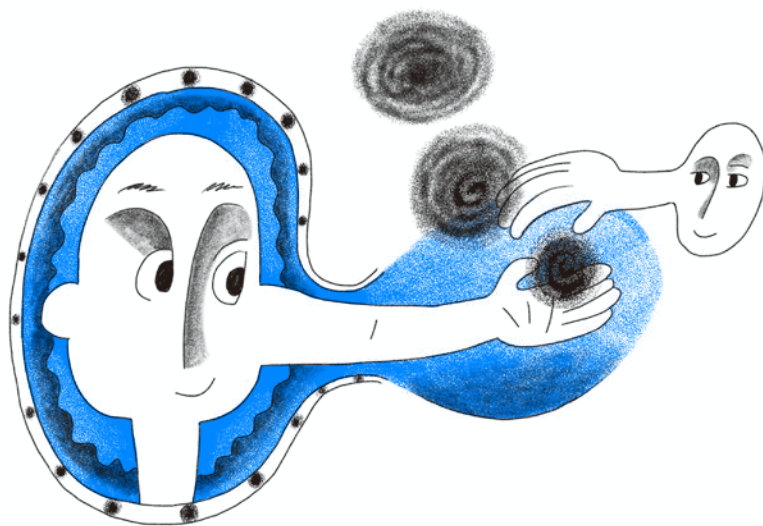
「あのうイレギュラーなことっていうか、自分の中で、ハプニング的に出会ってしまうことがあればいいなと思ったりはしてます。」

「もう一軒家空いてるけど住まへんって言われたのがきっかけです。(中略)家を探してたわけじゃなくて、まあ大家さんにたまたま言ってもらえた家があったのが理由です。」



### 【共助・協働的人間関係】

このカテゴリーを構成する概念は<贈与><相対化>の2つである。ここで言う<贈与>は、経済的關係ではなく、周囲や環境から与えられるもの(「無償で」という意味を含む)、それを可能にする人間関係という意味である。このカテゴリーは、利益関係に基づかない贈与によって、【個別的・普遍的創作主体としての作家(アーティスト)】の思想や、創造的欲求に変化をもたらし、それを具体化し、社会化し、<相対化>する。ここでいう<相対化>はオルタナティブな視点の獲得と言ってもよい。



### <贈与>に関する語り

「今もちろん集中して、一人のなんか自分の世界でものづくりするときは作るっていう感覚はもちろんあるんですけど、なんかそれ以上に結構昔と違うのは、あの、自分が外からいろんな影響を受けて作るようになったので、なんかその部分がすごく楽というか、作るときに楽なんですよね、自分と距離がある状態というか、その作品自体がですね。」

「昔はあの結構自分の自画像とかを描いたりとか、自分のあの飼ってるペットだったり、自分の生活の中にあるものっていうすごく自分との距離が近いものをモチーフに制作してたんですけど、そのころは絵を描いていたんですけど、なんかそれが今映像作品とか、写真になることによって、なんか自分はその実際に自分が見た風景を切り取っていたりとか、なんか自然の中にある一部をもらっているような感覚があって」

「で、まあ、すごい物件があると。でかいと。誰も住んでないらしいと。どう思うって言われて、どう思うもそうやけど、この値段無理やると。っていう話でも、自分たちだけじゃなくてもうちちょっといろんな人を集めたらこれ借りられるんじゃないかっていうので、システムを作って借りちゃったっていう話ですね。」

### <相対化>に関する語り

「自分が作りたいものと外から見てくれる人の考えが一致しているというか、なんか自分が作ったまま見られているという感覚があったのは、あんまり自分を反映させていない作品を作ることができたときかなというのちょっと感覚的にあって」

「だから割と自分の、手を使って何かを作るっていう造形的な行為っていうものを、いったんちょっと手放すっていうことはやってるかなと、で、むしろ、まあ人と一緒に共作を始めたりとか、(中略)ある種の関係性を持ちながら進めていく制作スタイルに、その時あまりね、そういうふうにはばって意識しなかったと思うんですけど、でもまあ変わってましたね。」

「あんまりその自分の活動だけで閉じないようにというか、その時にでも別に一緒にやるみたいなことになると話が変わってくるので、いろんな活動が並立している感じというか、別れながら並立しているというか、そのイメージとしてはあって、結構お互いに刺激になっているところはあるんじゃないかと思いますね。」

### 【市場主義的・新自由主義的美術市場】

このカテゴリーを構成する概念は<競争・自己責任><男性・中心・東京><地域振興・観光>の3つである。このカテゴリーと概念は、前述のカテゴリー群、概念群とは基本的に遠いものである。しかし、アーティストが【共助・協働的人間関係】を基盤に【個別的・普遍的創作主体としての作家(アーティスト)】として活動しようとするとき、その生活資金・活動資金を得るために、否応なくかかわることになるカテゴリーである。今回ほぼすべてのインタビューにおいて、アーティストがこのカテゴリーとの関係をどう整理し、理解しようかと葛藤している様子が示された。以下の語りを見るとわかることだが、アーティストは【市場主義的・新自由主義的美術市場】を意識しながらも、それに対して常にとまどい、疑問を持ち、葛藤している。だがしかし、そこから完全に離脱することもできないというジレンマを抱えている。

### <競争・自己責任>に関する語り

「最近ほんまに働いてないと思います。(中略)単発のバイトみたいな時、嫌で嫌でしょうがないけどお金のためだと思って行ってた、その感覚が遠い昔のように思っています。」

「あとは自分で、資金を確保していかないといけないというプレッシャー」

「んーなんか順番が色々あって、大学に入ったあたりはお金に苦労することも、今もそんなにあれですけど、お金の苦労したりして、お金のこととか所有することとかについてすごく関心があって、作品が売れる売れないとか、すごく高額で作品が売れる時もあれば、アルバイト以下の扱いをアーティストがされることもあったりとかして、なんかその辺の葛藤がめちゃくちゃあって」





### <男性・中心・東京>に関する語り

「いわゆる美術じゃなくてもみんな東京行くわ、行くんですよ。特に商業的なアートって言ったら変やな、例えばデザイナーは結構当時行ってたし、当時インスタレーションする子とか、写真やる子とかもやっぱりみんな都内目指して、卒業したらポンと行っちゃう子はいたので、でも何すか、別に京都にいる、なんやろな、必然性っていうのはそんなにみんな感じてはないかもしれないけど、いてもいいんだっていうある種の肯定みたいな感じ。そこはあるような気はしますけど。」

「ローカリティと都市をつなぐみたいなことでは決してなくて、ローカリティとローカリティを繋いでいくことでなんか見えて来るといつも思ったりもしてるし、だから、そういう意味でまだなんか今は観察的な目線の方が強いんですけども、いろんな地域に出向いていく中で、あの、そのアイデアを自分なりに考えていってるって感じかな。」

「今の方法論に至ったのは、その枠っていう話をすれば、その、白人男性が築いてきた価値観みたいなの外れて、もう少しえっと、民藝的なというか、東アジアとかから発信されてる、東アジアで出来上がってきた一つの文化みたいなとか、その仏教的なものとか、いろんな要素っていうのに魅力を感じて、なんかそういうのを真似ながら作ってきていて今そうなっているという感じですかね。」

「女性アーティストの地位が低すぎるんじゃないかみたいなことに、遅いんですけど気づき始めて、そのことと作品っていうのがすごく、えっと、そのことが作品にもすごく影響してきているし、(中略)芸術大学にはあの男性の先生がほとんどなので、そちらから評価されてきた自分、彼らからの評価で美術的な価値観を培ってきた自分っていうのと、えっと、そうではない文脈で、歳の近い同性のものづくりの人と作品について語り合うときに必要な知性っていうのが全く別だったなみたいな感覚があって」

### <地域振興・観光>に関する語り

「観光化されていて、これはこういうもんだって、なんかそれをちょっと斜めから見て、一体なんだろうここは、なんか思い出装置テーマパークみたいだ、みたいな、ちょっと引いた目で見ちゃうとか、そういうときに歴史とかそこにいる人たちにとっての何かみたいなものっていうのを、すごくその強制させられるような感じがあって、そうじゃない見方とかもできそうだけどなとか」

「要するに地域の環境でさ、うん、なんかそんなに僕自身がなんかこう地域アートのそこに入ってみて、みたいな感じじゃないんだけど、まあむしろなんていうのかな、ある程度シーンとか現代のトピックみたいなことからちょっと距離を置くような環境みたいなのはあるのかなと思っていて」

「なんか、いわゆるこうデザイナーとかがやるような地域との関わり方とか、コミュニティスペースを作ってみたいな、なんかそういうやり方では決してなくて、あくまでもアーティストとして、うーんと、よく言うのは、寅さんみたいな感じ。フーテンの寅さんみたいな感じで、そこで何かを巻き起こすけれども、また旅立っていきみたい、なんかそういうあり方は非常に理想的で、けど何年後にはバナナの叩き売りしに戻って。なんかそういういわゆる、なんていうのかな、常に定住してそのローカリティの中にずっといるっていう意味ではなくて、あの、なんかそうやって場を徐々に変えながらやっていくようなあり方っていうのが、うん、面白いし」

### 【調停主体としてのHAPS】

このカテゴリーを構成する概念は<よろずや><ブレイクスルー><ケア><地域との距離感>の4つである。このカテゴリーは一義的には【個別的・普遍的創作主体としての作家(アーティスト)】の【市場主義的・新自由主義的美術市場】への橋渡しとして立ち現れる。ここで重要なのは、その橋渡しが【個別的・普遍的創作主体としての作家(アーティスト)】の【市場主義的・新自由主義的美術市場】への“迎合の促し”になっていない点である。【調停主体としてのHAPS】カテゴリーを構成する<よろずや><ブレイクスルー><ケア><地域との距離感>の4概念は、いずれも【市場主義的・新自由主義的美術市場】よりもむしろ【共助・協働的人間関係】に対して親和性が高い。【調停主体としてのHAPS】カテゴリーは、【市場主義的・新自由主義的美術市場】を視野に入れつつも、アーティストが本来的に大事にしている価値観や人間関係を際立たせる。ここではそのありようを調停と呼んでいる。前述したように、【調停主体としてのHAPS】は、地域社会を舞台としつつ、地域社会と適度な距離を保ちながら(<地域との距離感>)、アーティストと【市場主義的・新自由主義的美術市場】を調停し、さらにその回路それ自体を逆手にとって利用しつつ、むしろ【個別的・普遍的創作主体としての作家(アーティスト)】が、成熟したひとりのアーティストとして<ブレイクスルー>できるような環境を整えるのである。

### <よろずや>に関する語り

「私がこういう共有のスタジオだったりとか団体に対する勝手なイメージみたいなものがあって、なんか割とバリバリの現代美術の中ですごいアートフェアに出したりとか売れる作品をどんどん作っていかみたい、そういう結構なんかキラキラした世界なのかと思っていたんですけど、HAPSは本当にアーティストだけではなくて、なんかその社会に属してる老若男女の、なんかすごく小さな悩みだったりとか、その方々が持っている表現欲みたいなものに寄り添ってくれるよろず屋さんのものだと思うので、なんか自分のこともすごいアーティストだっていうふう特別視しないで済んだし、自分も色んな悩みを持っている人の中の一部なんだなってことがHAPSにいたら自然に理解できた」

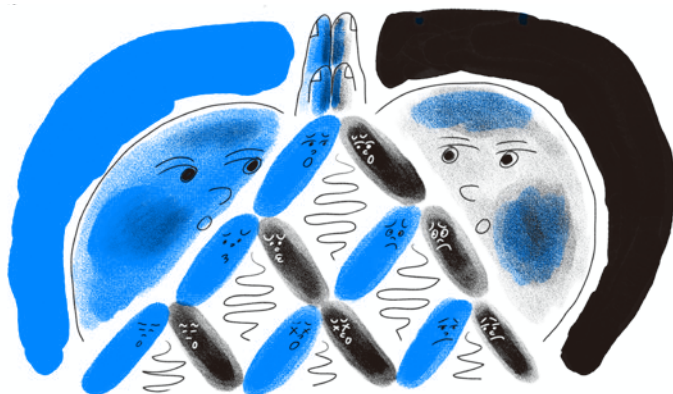
### <ブレイクスルー>

「自分の活動を、人に、展覧会に来てもらう以外で、人にどう伝えるかっていうことについて、HAPSは意識化してくれたっていうか」

### <ケア>

「その時に持っている色々な悩みって必ずしも制作と直接繋がっているわけではなくて、たとえば何かそうですね、今の生活がお金がなくて苦しいとか、なんかちょっと食べるものがないとか、そういうのも含めて弱みを出しやすい人たちが集まっているという感じで、(中略)何か私の場合はそのHAPSとの関わりは本当に悩み相談所みたいな、そういう印象だったかなと思います」

「なんかあの、必ずしも作品を作らなくてもいいというか、割と他の団体はどんどん制作して、どんどん出して、発表して、みたいなもののサポートしているイメージがあるんですけど、なんかHAPSは制作していない時間もふくめて、寄り添ってもらえるというか、そういう自分を受け止めてもらえるような雰囲気があるかなあと考えています。」



### <地域との距離感>

「一回私、(中略)運動会みたいなのに出たことがあるんですけど、強制ではなくて、もし良かったらみたいな感じで息抜きみたいな感じで誘っていただけ嬉しかったですね。」(地域イベントへの参加について) HAPSの場合はそこ割とゆるくてというか、そこまで絶対参加しなくちゃいけないとかそういう感じではなかったと思うので、もちろんいくつかは参加して、それはそれで面白かったし、当然そんなにそれが義務的みたいな感じではないのは、それはすごい良いんじゃないかと思えますけどね。」

「(地元の方との交流について) 児童館の方々との交流はあったんですけど、それ以外は自分の家の大家さんとか、そのぐらいの関わりだったかなと思いますね。」

「地域の方達と一緒に何か活動しよう、みたいなのは自分が住んでる地域においてそういうことをしたいっていう気持ちは全然なくて、なんかこう地域とか呼ばれるあるコミュニティのところに、異物的に呼ばれたりするのは面白いと思うんですけど」

### 16 おわりに

ここまで述べたように、今回のインタビュー調査では HAPS が地域社会にも、美術マーケットにも、共に十全な配慮をしつつ、そこでの、アーティストによる独立した主体的な創作活動を全面的に保障し、守ろうとする様子が浮かび上がった。ここではそのありようを「調停」と呼んでいる。ここでの「調停」は、「関係はとり持つが」「いずれの立場にも取り込まれない」と言い換えてもいい。こと美術に関する中間支援団体、市民社会の取り組みにおいて、「つまるところ何をやっているのかよくわからない」「よろずや的である」「どんな話でもできる」「自由でゆるやかである」「どっちつかずである」というあり方そのものが、その「調停」を支えている可能性については、今回のインタビューでも十分に示唆されたと言える。その意味でも、HAPS のような取り組みのもつ美術史的な意味、現在の社会における価値についても、今後さらなる評価がされていくべきであろう。

今回、インタビュー調査に協力を頂いた6名のアーティストの皆さんに改めて御礼申し上げます。また調査にあたっては HAPS 事務局、特に沢田朔さんに諸事助けて頂いた。ここに深く感謝の意を表するものである。

以上

# 事業実績

# Achievements

## 主催事業

| タイトル   | 開催日                     | 会場  | ゲスト   | 共催等  |
|--|-------------------------|---|---|--|
| 第8期スタジオ使用開始  | 2020/4/1~               | HAPSスタジオ  |   |  |
| ALLNIGHT HAPS 2020「翻訳するディスタンシング」企画:佃七緒                                       | 2020/6/1~<br>2021/3/23  | HAPSオフィス1F  | 小出麻代 / 小林太陽 / 西尾佳織 / 長谷川由貴 / 村上美樹           | 公益財団法人 朝日新聞文化財団 / アーツサポート関西  |
| ALLNIGHT HAPS 2020「Probable Cause」企画:小松千倫                                    | 2020/8/16~<br>12/31     | HAPSオフィス1F  | 石毛健太 / 土井樹 / 中谷優希 / 濱田明李 / 原淳之助 / 松元悠 / ヨウジ | 公益財団法人 朝日新聞文化財団 / 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う京都市文化芸術活動緊急奨励金                             |
| GA TALK 021「サイト・スペシフィック・アート:その時その場所ので、そしてそこにいる人たちとできること」by 鳥袋道浩 ★            | 2020/9/2                | 京都芸術大学瓜生山キャンパス  | 鳥袋道浩  | 京都芸術大学大学院  |
| GA TALK 022「新しい日常に順応することへの拒絶」by ジュン・ヤン(楊俊) ★                                 | 2020/9/23               | 京都芸術大学瓜生山キャンパス  | ジュン・ヤン                                      | 京都芸術大学大学院  |
| GA TALK 023「東アジアの現代美術と植民地主義の遺産」by 山本浩貴(文化研究者、アーティスト) ★                       | 2020/10/24              | 京都芸術大学瓜生山キャンパス  | 山本浩貴  | 京都芸術大学大学院  |
| 連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門 第1回講座」ゲスト:淡路由紀子 ★                          | 2020/11/12              | HAPSオフィス1F  | 淡路由紀子                                       | 進行:中川真   |
| GA TALK 024「状況・条件・環境に回答しつづける」by 服部浩之(キュレーター / 秋田公立美術大学大学院准教授 / 京都芸術大学客員教授) ★ | 2020/11/14              | 京都芸術大学瓜生山キャンパス  | 服部浩之  | 京都芸術大学大学院  |
| 連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門 第2回講座」ゲスト:今井利華 ★                           | 2020/11/26              | HAPSオフィス1F  | 今井利華  | 進行:中川真   |
| 連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門 第3回講座」ゲスト:花岡伸宏 ★                           | 2020/12/10              | HAPSオフィス1F  | 花岡伸宏  | 進行:藏原藍子  |
| 京都市内の福祉施設等の文化芸術活動の状況に関するアンケート  | 2020/12/14~<br>2021/1/8 | オンラインアンケート  |   |  |
| GA TALK 025「超個体」by 米谷健+ジュリア(現代美術家) ★   | 2020/12/15              | 京都芸術大学瓜生山キャンパス  | 米谷健+ジュリア                                    | 京都芸術大学大学院  |
| 連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門 第4回講座」ゲスト:木戸玲子 ★                           | 2020/12/17              | HAPSオフィス1F  | 木戸玲子  | 進行:中川真   |
| GA TALK 026「彫刻とストーリーテリング」by ラリアン・タベット(アーティスト) ★                              | 2021/1/13               | 京都芸術大学瓜生山キャンパス  | ライアン・タベット                                   | 京都芸術大学大学院  |
| 連続講座「文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門 第5回講座」ゲスト:小笠原邦人 ★                          | 2021/1/14               | HAPSオフィス1F  | 小笠原邦人                                       | 進行:中川真   |
| Kyoto BASEd  | 2021/1/22~<br>4/6       | THEATRE E9 KYOTO / DELTA / KYOTOGRAPHIE / 出町座 / CLUB METRO / kumagusuku 他 |   | BASE   |
| 京都市 文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業 モデル事業「タイトルとホコラとツーリズム」season8 七条河原じゃり風流          | 2021/3/20~<br>5/5       | 京都市下京いぎいき市民活動センター   | 谷本研/中村裕太                                    | 協力京都市下京東部地域包括支援センター / 京都市下京いぎいき市民活動センター / 崇仁デイズうるおい / 崇仁まちづくり推進委員会 / 柳原銀行記念資料館 |
| HAPS OPEN HOUSE オンライントーク ★   | 2021/3/24               | HAPS HOUSE  | 中田一会 / 田中功起                                 | 京都まちじゅう文化芸術事業  |
| HAPS HOUSE オープンデイ  | 2021/3/26~27            | HAPS HOUSE  |   | 京都まちじゅう文化芸術事業  |

## 協力事業等

| タイトル   | 開催日                               | 会場   | 協力内容                 | 主催等   |
|--|-----------------------------------|--|----------------------|---|
| 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う京都市文化芸術活動緊急奨励金相談窓口   | 2020/5/1~                         |  | 広報・相談窓口対応            | 京都市   |
| SUBJECT / OBJECT   | 2020/7/10~<br>8/7, 8/14~<br>30    | ホテル アンテルーム 京都 Gallery 9.5  | 広報協力                 | OBJECT実行委員会<br>OBJECT事務局                              |
| 村田宗一郎 2会場同時個展「Women, Animals, and a Fence that parts self from others / In Blue」 | 2020/9/4~<br>27                   | FINCH ARTS / kumagusuku SAS  | 広報協力                 | 村田宗一郎   |
| 7名のアーティストによるグループ展「踊り場と耕作」  | 2020/9/14~<br>10/18               | ホテル アンテルーム 京都 GALLERY 9.5  | スタジオ使用(堀井)           | 京都芸術大学 美術工芸学科 写真・映像コース                                |
| 山下拓也 / 前谷開 山下拓也個展「Manta ray」 / 前谷開個展「夜は昼、昼は夜を」                                   | 2020/9/18~<br>10/4                | Art Center Ongoing   | スタジオ使用(前谷) / 制作協力    | Art Center Ongoing                                    |
| 影を刺す光ー三嶽伊紗+守屋友樹  | 2020/10/10~<br>2020/11/29         | 京都芸術センター ギャラリー北・南  | スタジオ使用(守屋)           | 京都芸術センター  |
| TOKYO MIDTOWN AWARD 2020   | 2020/10/16~<br>11/8               | 東京ミッドタウンプラザB1  | スタジオ使用(川田)           | 東京ミッドタウン  |
| 文化芸術関係者向けHAPS&京都市文化芸術総合相談窓口 合同相談会  | 2020/11/2                         | 京都芸術センターフリースペース他   | 相談対応                 | 京都市文化芸術総合相談窓口   |
| 劇場で考える。支えること。支えられることー舞台作品「Pamilya (パミリア)」の映像上映と関連プログラム                           | 2020/11/13~<br>15                 | ロームシアター京都 ノースホール   | レクチャー&シンポジウムの進行      | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) / 京都市                  |
| ロームシアター京都 演劇ワークショップ「岡崎地域をガイドする」  | 2020/11/21~<br>22                 | ロームシアター京都 会議室2   | 企画協力                 | 文化庁 / 京都国立近代美術館                                       |
| 京都市京セラ美術館「三人のガラスリボン」   | 2020/12/3~20                      | 京都市京セラ美術館 ガラスリボン   | 企画協力                 | 文化庁 / 京都国立近代美術館                                       |
| 京都市京セラ美術館「美術館のどうぶつ園」   | 2020/12/3~20                      | 京都市京セラ美術館 エントランス周辺   | 企画協力                 | 文化庁 / 京都国立近代美術館                                       |
| トークイベント「アートの可能性を探る」  | 2021/1/10                         | ロームシアター京都 3階 パークプラザ  | 出演者コーディネート           | 京都市 / 京都文学賞実行委員会(京都新聞、一般社団法人京都出版文化協会等) / ロームシアター京都    |
| 移動展覧会「ノガミツツバベストリー」   | 2021/1/18~<br>3/31                | 京都市地域多文化交流ネットワークセンター「希望の家」 / 凌風小中学校 / THEATRE E9 KYOTO / 京都市下京いぎいき市民活動センター / ヘルズピア21 | 制作協力                 | 総合福祉施設 東九条のぞみの園                                       |
| ECHO-OHARANO KYOTO 2021  | 2021/2/5~<br>2/28                 | OHARANO STUDIO   | 広報協力                 | マイケル・ウィッテル/ベ・サンソン/平田万葉/ダンカン/プラザトノ/グレゴリー・アンボス/サーガル・パテル |
| 赤鹿麻耶 写真展 ときめきのテレパシー  | 2021/2/25~<br>3/22, 3/24~<br>4/19 | ホテル アンテルーム 京都 GALLERY 9.5  | まちじゅうアーティスト          |   |
| Kyoto Crafts Exhibition DIALOGUE +   | 2021/3/5~28                       | ホテル カンラ 京都1F kanra shop  | まちじゅうアーティスト          |   |
| 片山達貴「息を録音する」   | 2021/3/12~14                      | 外  | まちじゅうアーティスト          |   |
| 楽只アートワークショップ   | 2021/3/26                         | 高齢者ふれあいサロン   | こども対象のワークショップコーディネート | 谷澤紗和子   |
| 旅中の天 旅にでて、また旅にでる   | 2021/3/27~<br>7/4                 | RC HOTEL 京都八坂1Fロビー、301,302号室   | まちじゅうアーティスト          |   |
| 京都まちじゅうアートプロジェクト「光冠茶会 国際人類観測年」   | 2021/3/30                         | ロームシアター京都ロームスクエア   | 企画協力                 | 京都まちじゅうアートフェスティバル実行委員会                                |



## トーク等への参加

| タイトル  | 開催日       | 会場       | 主催                        |
|---|-----------|----------|---------------------------|
| 文化芸術関係者向け HAPS & 京都市文化芸術総合相談窓口 合同相談会                      | 2020/11/2 | 京都芸術センター | 京都市文化芸術総合相談窓口             |
| アーティストを目指す人のための HAPS 事業説明会 - HAPS って何? HAPS のアーティストサポート ★ | 2021/3/3  | オンライン    | 共催: 京都市立芸術大学 キャリアデザインセンター |

## 掲載

| タイトル   | 掲載日       | 媒体                              | 分類  | 発行元                            |
|--|-----------|---------------------------------|-----|--------------------------------|
| 「の」に込められた「望み」と共に…  | 2020/4/1  | のぞみ                             | その他 | 社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会東九条のぞみの園  |
| 京都市が独自の文化芸術活動緊急奨励金を創設。1件30万円を奨励                                      | 2020/4/24 | ウェブ版美術手帖                        | web | 株式会社BTCompany                  |
| 第2回京都文学賞 HAPSと連携したリーフレット等の発行及びアンバサダー(応援大使)の就任について                    | 2020/4/27 | 京都市情報館                          | web | 京都市                            |
| 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う京都市文化芸術活動緊急奨励金リーフレットの発行及び京都の芸術家等の活動状況に関するアンケートについて | 2020/5/1  | 京都市情報館                          | web | 京都市                            |
| 第2回「京都文学賞」   | 2020/5/1  | 京都新聞アート&イベント情報サイト「こしるべ」         | web | 株式会社京都新聞COM                    |
| 第2回京都文学賞作品・読者選考委員募集  | 2020/5/31 | 京都新聞                            | 新聞  | 京都新聞社                          |
| (文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業)相談事業「Social Work / Art Conference」の開始について  | 2020/6/16 | 京都市情報館                          | web | 京都市                            |
| 第1回京都文学賞 一般部門最優秀賞受賞作が11月中旬に刊行予定                                      | 2020/6/26 | 京都市情報館                          | web | 京都市                            |
| 京の地域住民と福祉施設 共生企画 絆のタペストリー 今のみる／さく／よむ                                 | 2020/7/2  | 京都新聞                            | 新聞  | 京都新聞社                          |
| 燃眉之急興永続投資 日本地方政府針對COVID-19衝撃的藝文補助観察                                  | 2020/7/21 | SAVVY 2020年9月号                  | 雑誌  | 京阪神エルマガジン社                     |
| [GLOBAL ART TALK 021] 島袋道浩(アーティスト)開催のお知らせ                            | 2020/8/27 | 京都芸術大学イベント情報                    | web | 京都芸術大学                         |
| 学び/参加 地域の課題を考えるプラットフォーム  | 2020/9/1  | ロームシアター京都自主事業ラインアップ             | その他 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) |
| 崇仁すくすくセンター   | 2020/9/1  | のぞみ                             | その他 | 社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会東九条のぞみの園  |
| ALLNIGHT HAPS 2020「Probable Cause」                                   | 2020/9/3  | 京都で遊ぼうART                       | web | 株式会社エグザム                       |
| 展覧会「影を刺す光-三嶽伊紗+守屋友樹」   | 2020/9/8  | 京都芸術センターイベントスケジュール              | web | 京都芸術センター                       |
| 7名のアーティストによるグループ展「踊り場と耕作」  | 2020/9/14 | hotel anteroom kyoto exhibition | web | ホテル アンテルーム 京都                  |
| GLOBAL ART TALK 022「新しい日常に順応することへの拒絶」ジュン・ヤン(アーティスト)                  | 2020/9/16 | 京都芸術大学イベント情報                    | web | 京都芸術大学                         |
| 山下拓也/前谷開 山下拓也 個展「Manta ray」/前谷開 個展「夜は昼、昼は夜を」                         | 2020/9/17 | Art Center Ongoing              | web | Art Center Ongoing             |
| 「影を刺す光-三嶽伊紗+守屋友樹」展   | 2020/9/20 | 京都芸術センター通信                      | その他 | 京都芸術センター                       |
| 美術教育の場が集まった者達の「はみ出し」の場 - グループ展「踊り場と耕作」                               | 2020/10/4 | 瓜生通信                            | web | 京都芸術大学 広報課                     |

| タイトル  | 掲載日        | 媒体                          | 分類  | 発行元                           |
|---|------------|-----------------------------|-----|-------------------------------|
| GLOBAL ART TALK 023山本浩貴「東アジアの現代美術と植民地主義の遺産」             | 2020/10/13 | 京都芸術大学イベント情報                | web | 京都芸術大学                        |
| 郊外観光の手引き  | 2020/10/16 | 冊子「郊外観光の手引き」                | その他 | 川田知志                          |
| HAPSよりごあいさつ   | 2020/11/4  | 新道貞教くらしの友2020               | その他 | 京通                            |
| GLOBAL ART TALK 024服部浩之「状況・条件・環境にตอบสนองにつづける」          | 2020/11/5  | 京都芸術大学イベント情報                | web | 京都芸術大学                        |
| 文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門                            | 2020/11/16 | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| 「岡崎をガイド」をテーマに 市民ら戯曲作り挑戦                                 | 2020/11/22 | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| アートが生み出す共生社会「CONNECT」を通じて                               | 2020/11/26 | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| 文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門                            | 2020/11/30 | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| 京都市の芸術家支援を行うHAPSが主催する、福祉の現場でのアートを取り入れた実践について学ぶオンライン連続講座 | 2020/11/30 | DIVERSITY IN THE ARTS TODAY | web | 日本財団                          |
| 多様さ輝く芸術展  | 2020/12/4  | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| GLOBAL ART TALK 025 米谷健+ジュリア「超個体」                       | 2020/12/4  | 京都芸術大学イベント情報                | web | 京都芸術大学                        |
| アートが生み出す共生社会「CONNECT」を通じて                               | 2020/12/5  | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| 一緒につくる それがアート   | 2020/12/5  | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| 文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門                            | 2020/12/7  | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| 文化芸術による共生社会実現のためのアーツマネジメント入門                            | 2020/12/21 | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| GLOBAL ART TALK 026ライアン・タベット「彫刻とストーリーテリング」              | 2021/1/5   | 京都芸術大学イベント情報                | web | 京都芸術大学                        |
| 芸術志す人に支援を ロームシアター京都でトークイベント コロナ下での活動語る                  | 2021/1/11  | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| 福祉とアートの協働を支援 HAPSが相談事業をスタート                             | 2021/1/14  | 檸檬新報                        | その他 | 一般社団法人「檸檬新報舎」                 |
| 南区・高齢者施設の中庭造り「地域の輪」誕生 タペストリーに                           | 2021/1/25  | 京都新聞                        | 新聞  | 京都新聞社                         |
| お散歩しながら、このまちの文化と出会う。                                    | 2021/1/27  | 京都駅東部エリアのカルチャーを発信。 5to9     | その他 | 京都市総合企画局プロジェクト推進室             |
| 展覧会 ALLNIGHT HAPS 2020「翻訳するディスタンス」                      | 2021/2/5   | 京都で遊ぼうART                   | web | 株式会社エグザム                      |
| HAPSスタジオ使用者募集のお知らせ                                      | 2021/2/14  | AIR-J                       | web | 京都市/京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会) |
| 展覧会 ALLNIGHT HAPS 2020「翻訳するディスタンス」                      | 2021/2/19  | ウェブ版美術手帖                    | web | 株式会社BTCompany                 |
| 光冠茶会  | 2021/2/21  | 京都芸術センターイベントスケジュール          | web | 京都芸術センター                      |
| 伝統工芸の見本市、今年も京都で開催                                       | 2021/2/24  | hotel kanra kyoto news      | web | UDS株式会社                       |
| 作品展示片山達貴「息を録音する」  | 2021/3/6   | 外                           | web | 外                             |
| 旅中の天 旅にでて、また旅にでる  | 2021/3/24  | RC HOTEL 京都八坂BLOG           | web | RC HOTEL 京都八坂                 |

|         |  |
|---------|--|
| 相談受付数   | アーティストから 84件 / 支える人から 114件 / 計198件                               |
| 物件マッチング | コーディネート実現数 4件 / シェアスタジオへの入居実現数 3件                                |
| 広報      | 新聞 13件 / Web 25件 / その他 10件 / 計 48件                               |
| インターネット | ウェブサイトアクセス数 108367件 / Facebookフォロワー数 3069件 / Twitterフォロワー数 3900件 |
| 視察      | 12件  |

## HAPS実行委員会(敬称略)

### 実行委員長

遠藤水城(キュレーター)

### 副実行委員長

佐藤知久(京都市立芸術大学芸術資源研究センター専任研究員/教授)

井上えり子(京都女子大学家政学部生活造形学科教授)

砂川敬(京都市文化市民局文化芸術都市推進室長)

加須屋明子(京都市立芸術大学美術学部教授)

勝治真美(京都芸術センタープログラムディレクター)

後藤創平(京都新聞編集局運動部記者)

後藤結美子(京都市美術館学芸課学芸員)

菅谷幸弘(六原自治連合会事務局長)

小林正典(京都市東山区役所地域力推進室まちづくり推進課長)

福永敏三(新道自治連合会会長)

松本泰章(嵯峨美術大学芸術学部造形学科長)

山田創平(京都精華大学人文学部教授)

### アドバイザー(順不同,敬称略)

建島哲(京都芸術センター館長/多摩美術大学学長)

椿昇(京都造形芸術大学美術工芸学科長)

島本澁(京都精華大学芸術学部名誉教授)

名和晃平(アーティスト)

高嶺格(アーティスト)

小山登美夫(小山登美夫ギャラリー株式会社代表取締役)

松尾恵(MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w 代表)

吉岡洋(京都大学こころの未来研究センター特定教授)

潮江宏三(京都市立芸術大学名誉教授)

富永茂樹(京都大学人文科学研究所名誉教授)

村上圭子(京都市副市長)

### 一般社団法人HAPS

#### 代表理事

遠藤水城

#### 理事

藏原藍子 四元秀和

#### 監事

植木克明

#### 事務局

石井絢子 岡永遠 櫻岡聡 沢田朔 壺美智子



遠藤水城

Social Work / Art Conference  
(SW/AC)

ディレクター  
奥山理子

アシスタントコーディネーター  
小泉朝未